

第1学年 新学習指導要領解説 算数編を読む

1 主な改善点

目標	D 数量関係	具体物を用いた活動などを通して，数量やその関係を言葉，数，式，図などに表したり読み取ったりすることができるようにする。
内容	A 数と計算	「対応などの操作によって」から「ものともとの対応させることによって」へ表現が変更。 簡単な場合について，3位数の表し方について指導する。 数を十を単位としてみることを指導する。 簡単な場合について，2位数などの加法及び減法の計算の仕方を扱う。
	B 量と測定	「面積と体積」を加え，直接比較する量として扱う。 日常生活の中で時刻を読むことができるように指導する。
	C 図形	「身近な立体」から「身の回りにあるものの形」へ表現が変更。
	D 数量関係	加法及び減法が用いられる場面を式に表したり，式を読み取ったりすることができるように指導する。（「数と計算」の内容より） ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができるように指導する。

<一言解説>

- ・「数量関係」の領域が新設された。
- ・「数量関係」の内容1は，「数と計算」の領域（H10版）からのものであり，内容2は，新しく加わったものである。どちらも非連続型テキストとして位置付けられる。
- ・全学年に「算数的活動」が指導内容として規定された。
- ・「算数的活動」において，「言葉，数，式，図を用いたりして考え，**説明する活動**」，「目的に応じて表やグラフを選び，**活用する活動**」などが規定された。
- ・用語「一の位」「十の位」の位が，漢字の表記に変更された。

2 算数的活動について

ア	具体物をまとめて数えたり等分したりし，それを整理して表す活動
イ	計算の意味や計算の仕方を，具体物を用いたり，言葉，数，式，図を用いたりして表す活動
ウ	身の回りにあるものの長さ，面積，体積を直接比べたり，他のものを用いて比べたりする活動
エ	身の回りから，いろいろな形を見付けたり，具体物を用いて形を作ったり分解したりする活動
オ	数量についての具体的な場面を式に表したり，式を具体的な場面に結び付けたりする活動

<算数的活動の例>

- ・オ 具体的な場面から数量の関係に基づいて立式したり，式から具体的な事柄や関係を読み取ったりする。具体的な式から，キーワードや図等を使いながら，その演算の場面のお話ができるように，説明する活動を多く取り入れ，式は「答えを求めるための計算を表したもの」に加え，「具体的な事柄を表している」ことに気付かせる。

3 移行期（21年度）の具体的授業像

（1）新しい指導内容（ 領域は，新しい学習指導要領第1学年のもの）

領域	内 容	現行指導学年
A	（1）カ 簡単な場合について，3位数の表し方を知ること。	2学年から一部
A	（2）ウ 簡単な場合について，2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。	2学年から一部
B	（1）ア 長さ，面積，体積を直接比べること。	3・4学年から一部
B	（2） 日常生活の中で時刻を読むことができるようにする。	2学年から

（2）授業例（啓林館 わくわく算数 1年）

単元名 「(なんじ なんじはん)」(10月),「とけい」(2月)

単元の概略(現行:0時間 新:全3時間)

時数	指導内容
1	・何時，何時半の時刻をよむこと 【 時， 時半】
2	・何時何分までの時刻をよむこと 【 時 分】

本時の算数的活動

長針，短針をもつ時計を見て，時刻(時，分)を読むことができるようにする。また，児童の日常生活での活動などと時刻とを関連させることにより，時刻に関心をもてるようにする。

本時の展開のポイント

内容は，現行の教科書(啓林館 わくわく算数 2年上)のp4～6と同様のものを10月と2月に分けて指導すると考えられる。時刻をよむに，時刻をつくることも含めて考えておく。

可能であれば，模型の時計を実際に動かさせて，親しませると共に，長針の動きと短針の動きの関係(長針1回りで，短針1時間分動くこと)を捉えさせる。

<p>【10月】 短針：1～12とその中間，長針：上か下</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これって何？ ・ 時計って何をやるもの？ ・ (3時を指した状態で,)何って，読むの？ ・ (時計をよく見せて,)時計には，何がある？ <p>目盛り(大小), 数字, 針(長短), ...</p>	<p>【2月】 短針：任意，長針：0～59</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (長針の動きに合わせて,)何分？ 5, 10, 15, ..., 55, 60 ・ 60の目盛りで，0になること。 ・ (長針の動きに合わせて,)何分？ 1, 2, 3, ..., 59, 0
--	--

10月と2月に分けての学習になっているのは，数範囲が20までの10月と，100まで扱った2月を考慮したものであるから，学習時期を安易に移動できない。「2時はん」を「2時30分」と形式的に教えてしまうことにも注意しなければならない。

上記のことをふまえ，アナログ時計のよさを生かし感覚的にも時刻を読むようにしておきたい。その際，以下のような説明する活動を多く取り入れ，期待する感覚を育てるのである。

「時計」「3時」等，名称，読み方を確認した後，時計をしっかりと観察させ，パーツに分けさせる。当たり前にも思えることにも疑問(例えば，なぜ針は2本あって，長さがちがうの)を持たせておきたい。その後は，パーツの一部(目盛りと短針のみ)を組み合わせて，時刻を読ませる(予想)のである。気付きに合わせて，一つ一つのパーツのよさに目を向けさせる。